

晩秋の岡山県に全国から146名が集結

2018ジャジング・スクール

全国ホルスタイン改良協議会（岡嶋建一郎会長）は、11月1～2日間、岡山県において地元ホルスタイン改良同志会（山本真五会長）並びにおかやま酪農業協同組合（岡田穂積代表理事組合長）の協力のもと、平成30年度ジャジング・スクールを真庭温泉「真庭リバーサイドホテル」並びに全農岡山県本部「総合家畜市場」において開催した。

このスクールは、酪農家の「牛を見る目」を養成し、酪農や乳牛改良への意欲高揚と後継者の育成、牛飼い仲間の親睦交流を目的として1982年から毎年開催され、今回で40回目を数える。これまでの参加者は累計で3000名を超え、昨年度までに109名の認定ジャッジマンが誕生している（※現在56名）。

◎13年振り 4度目の岡山県開催

今回は初回受講の「一般」39名と2回以上受講の「ジャッジマン候補」34名に加え、「認定ジャッジマン」17名が参加。地元関係者などを含め24都道府県から146名が集い2日間「牛の見方」の熱心な研修が行われた。

開講式では、岡嶋会長から主催者を代表して感謝の意が述べられた。次に、スクールの開催を快く承諾していただいた地元改良同志会の山本会長から挨拶が行われた。

続いて、事務局から参加者の審査講評技術の向上を目的として、審査講評アドバイザー3名（ABS(株)：高橋忠司氏、アルタジャパン(株)：細野淳氏、宮城県：半澤善幸氏）の紹介を行い、そして、昨年度よりパネラーをお願いしている静岡県の高橋直人氏から「乳牛のジャッジ」についての講義が行われた

◎序列付と審査講評技術を研修

開講式の後、一般クラスはホテルでホルスタインの審査標準をはじめ、好ましい審査手順、審査講評のポイントについて講習を行った。ジャッジマン候補・認定ジャッジマンは家畜市場内において、ホルスタイン種未経産2クラス・経産1クラス・ジャージー種経産1クラスの計4クラス（1クラス4頭）について、それぞれが序列付けを行い、答案提出後には指名された受講生がそれぞれの序列付けに基づき審査講評、審査講評アドバイザーから個々の講評に対しアドバイスをを行った後に、パネラーの高橋氏による模範解答と審査講評が行われた。特に、序列付けに際しては、サイズの大小に拘らず月齢・産次数はもちろんのこと、経済動物としての機能性を重視する必要があるとの説明が行われた。



◎テーマは「サイズ」

夕刻からは、ホテルで全員参加のもと「ザ・ジャッジング！」と題し、「牛のサイズ」をテーマにしたパネルディスカッションが行われた。

まず初めにパネラーを務めた高橋忠司氏からパワーポイントを用いて説明が行われ、半澤善幸氏の司会進行のもと、共進会等の審査員として経験豊富な細野淳氏、高橋直人氏、岡嶋建一郎氏、福屋栄人氏、北島隆氏をコメンテーターに招き、経済動物・管理動物として最も機能的な牛のサイズのあり方、また共進会やショーで序列を付ける際に重視しなければならないポイントとして、サイズで序列付けするのではなく、骨格構造の正確性や乳用性に重点を置いた序列付けをすることが最も重要であるなど、会場全体が一体となり熱心な討論が行われた。



◎好ましい審査手順の研修

翌日は早朝から「総合家畜市場」で受講生全員が計4クラスの研修を行った。その後、未経産・経産の各クラス上位2頭を出品し、グランドチャンピオン並びにリザーブチャンピオン決定戦の進め方として、チャンピオン決定・謝辞等の進め方の研修を実施した。

最後に、岡嶋会長からパネラー、アドバイザーそして素晴らしい供試牛を準備いただいた地元改良同志会の方々の多大なるご協力に謝辞が述べられ、スクールは閉講した。



2018ジャッジングスクール in 岡山県 参加者（11月1～2日総合家畜市場にて）